

## 第7回 どこでも MY カルテ研究会

～「医療と介護の連携は認知症にどう対応できるか、ICTの果たす役割は」～

日時：2013年10月26日（土）13:00-17:30

場所：東京海上自動火災保険本社新館ビル 15階 中会議室（東京駅から3分）

<http://bb-building.net/tokyo/deta/521.html>

主催：どこでも MY カルテ研究会

共催：医療構想・千葉 <http://iryokoso-chiba.org/>

NPO 法人医療福祉ネットワーク千葉 <http://www.medicalwel.com/>

一般社団法人フューチャー・ラボ <http://thefuturelab.jimdo.com/>

2010年7月に始まったどこでもMyカルテ研究会は今回で第7回目を迎えます。この3年間で、どこでもMYカルテは現実のものとなりました。これからはいかに自治体や医師会などと効率的な運用につき共同作業ができるかが問われるでしょう。またこれらのどこでもMYカルテ実践は、医療だけではなく介護福祉をも包含するものになりつつあります。現在の介護領域では認知症を避けて通れません。ICT化からもっとも遠い世界と考えられています。

今回はこれらの問題を考えます。

■会費 10月26日（土）13:00-17:30 2,000円

参加希望者は、氏名・所属・連絡先を明記して以下までお申し込みください。

[dokodemomyrecord@gmail.com](mailto:dokodemomyrecord@gmail.com)

■懇親会 10月26日（土）18:30～ 5,000円

研究会のご参加ご連絡の際に、合わせてお申し込みください。

ポールスター丸の内

<http://r.gnavi.co.jp/g763362/>

\*東京海上日動ビルの斜め向かい

千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行本店ビルB1

■プログラム

開会 増山 茂（どこでも MY カルテ研究会・東京医科大学渡航者医療センター）

第一部 医療と介護のシームレスな連携における ICT の利活用その現状と目指す到達点

総合司会 竜崇正

序言：医療と介護のシームレスな連携が望まれており、また国では在宅介護のさらなる実践を推進している。しかしながら現場では医療と介護のシームレスな連携における ICT の利活用は十分とは言えない。共有すべき情報の範囲は？ どのような連携チームが必要か？ スムースな連携のためには何が必要か？ 費用の負担は？ など課題は多い。このセクションでは、マイナンバー導入が決まった中、国の目指す方向を改めて確認し、各地における実践の

状況、目指すべき方向について発表頂き、討論したい。

1. 「地域医療連携と福祉介護：新しいシステムの試み」  
姫野 信吉理事長（医療法人八女発心会 姫野病院／福岡）
2. 地域情報化に関する総務省の政策、番号制度の動向、医療 ICT 化の効果  
磯 寿生 総務省 情報流通行政局 地域通信振興課 地方情報化推進室長
3. 医療看護介護地域連携、浦安市医師会の取り組み  
竜崇正（浦安ふじみクリニック）

## 第二部 医療介護 ICT 連携から取り残された認知症

総合司会： 溝尾朗・増山茂

序言：医療と介護の連携という言葉はシンプルで美しいが、ひとたび現場に入るとそこはカオスである。ここに認知症が加わるとさらに複雑性は増す。

認知症関係の方々から話をお伺いするにつけ、認知症の医療そして介護はとても難しい問題を抱えていると感ずる。ICT による情報共有 1 つとっても、必要とする情報が職種により大きく異なること、介護側にとって医療専門用語の理解が難しいことが大きな壁となっている。しかし、仮に数値化やカテゴライズ化で情報プロセスコストを軽減できたとしても、根本的な解にはつながらないと思われる。医療介護の原点はクライアントとの心の交流である。それを保障したうえで、認知症介護の領域でも多職種との連携が可能となる情報交換のあり方を考えねばならない。クライアントのセキュリティを保全しつつ、医療者・クライアント関係を損なわない形で ICT の活用を考えてゆかねばならない。いくら複雑でもそれが少数自由度の決定論的カオスであるとすれば、解決は可能なはずである。

ただ、現時点の困難をもたらしている問題のひとつは、「認知症患者とはどのような存在か」「認知症患者の治療や介護に実際にはどのような問題が生じているのか」についての正確な知識を、自治体や政府関係者 ICT 関係者のみならず、“ふつう”の医療関係者も欠いていることにある。第二部ではそのあたりの根本的なところからはじめたい。

1. 認知症と地域医療介護連携実践の現状  
溝尾朗（東京厚生年金病院）
2. 認知症患者対策：政府の対応策・現場での問題点  
今井幸充（和光病院院長・認知症ケア学会副理事長）
3. 認知症とは何か御存知ですかー認知症と地域包括ケア  
尾林和子（社会福祉法人東京聖新会理事）
4. 認知症施策推進 5 年計画（オレンジプラン）における認知症初期集中支援チームモデル事業内容  
片山 智栄（桜新町アーバンクリニック在宅医療部）

## 第三部 総合討論

司会：田口空一郎（一般社団法人フューチャー・ラボ）、増山 茂